

## 平成24年度事業評価報告書 （施設名 森林研修センター情報交流館）

項 目	評価できる取り組み等	改善すべき課題
1 運営に関する評価	①常勤職員は3名であるが、イベント時等はネットワークのボランティアや養成講座で育成したボランティアの応援体制もできている。 ②施設内もおおむね適正に管理され、来館者に対するパンフレットの配布や危険に対する注意喚起を行うなど、利用者の安全確保もできている。	①facebook等のより一層の活用により来場者の生の声をより多く伺いサービス向上に努めて欲しい
2 事業実施に関する評価	①事前の打ち合わせを行い学校側の要望を把握するとともに、学年・ニーズに合わせた内容でプログラムを実施するなど質の高い環境学習をコーディネートしている。 ②インターネットや紙媒体（情報誌・チラシ）、マスコミ（新聞・テレビ・ラジオ等）を利用してより広く情報発信している。また、出前授業の際に宣伝する等地道な広報活動にも努めている。 ③情報交流館で育成したボランティアが養成講座修了後、情報交流館での森林環境学習の指導に当たるという流れをつくることで「県民参加の森づくり」に寄与している。 ④観光協会などの外部の団体と連携したイベントを行っていることは評価できる。	
3 利用実績	①年度事業回数は実施回数が339回と前年度の289回から増え、当初目標以上の実績件数となっている。しかし、入館者数は10,856人となり、23年度と比較して約200人減少した。	①イベント等の内容の更なる改善が必要である。
4 収支の状況	①おおむね予算どおりに執行されており、木エクラフトの材料を極力自然の素材にすることによって材料購入を控えるなど経費削減にも努めている。	
総合評価	B	①限られた管理費で、おおむね適正な管理が行われている。 ②イベント、研修、広報等幅広くされていることがわかるが、情報発信の質を高め、親しみのある、固有の情報を発信していく事が今後求められる。 ③事業は十分な回数実施しているので、それぞれの「体験の質」を高めることに尽力していただきたい。

【評価の基準】 A:仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの  
 B:おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの  
 C:仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力及び改善が必要なもの  
 D:管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

### 業務の改善についての意見

改善を求める事項
今後、充実させて取り組むべき事項
①情報発信の質を高め、親しみのある、固有の情報を発信していく事が求められる。 ②それぞれの事業の「体験の質」を高める必要がある。 ③学校、先生等との個の結びつきを重視して欲しい。